

恵庭ふるさと公園基本計画

ワークショップ報告書

平成 30 年 6 月

恵庭市役所

目 次

1	ワークショップ開催の目的	1
2	ワークショップ概要	2
2-1	ワークショップ参加者の選定	2
2-2	各ワークショップの開催目的及び開催内容	3
2-3	ワークショップ参加者への事前ヒアリングの実施	3
2-4	第1回ワークショップ	6
2-5	第2回ワークショップ	10
2-6	第3回ワークショップ	17
2-7	第4回ワークショップ	21
2-8	ワークショップまとめ	27

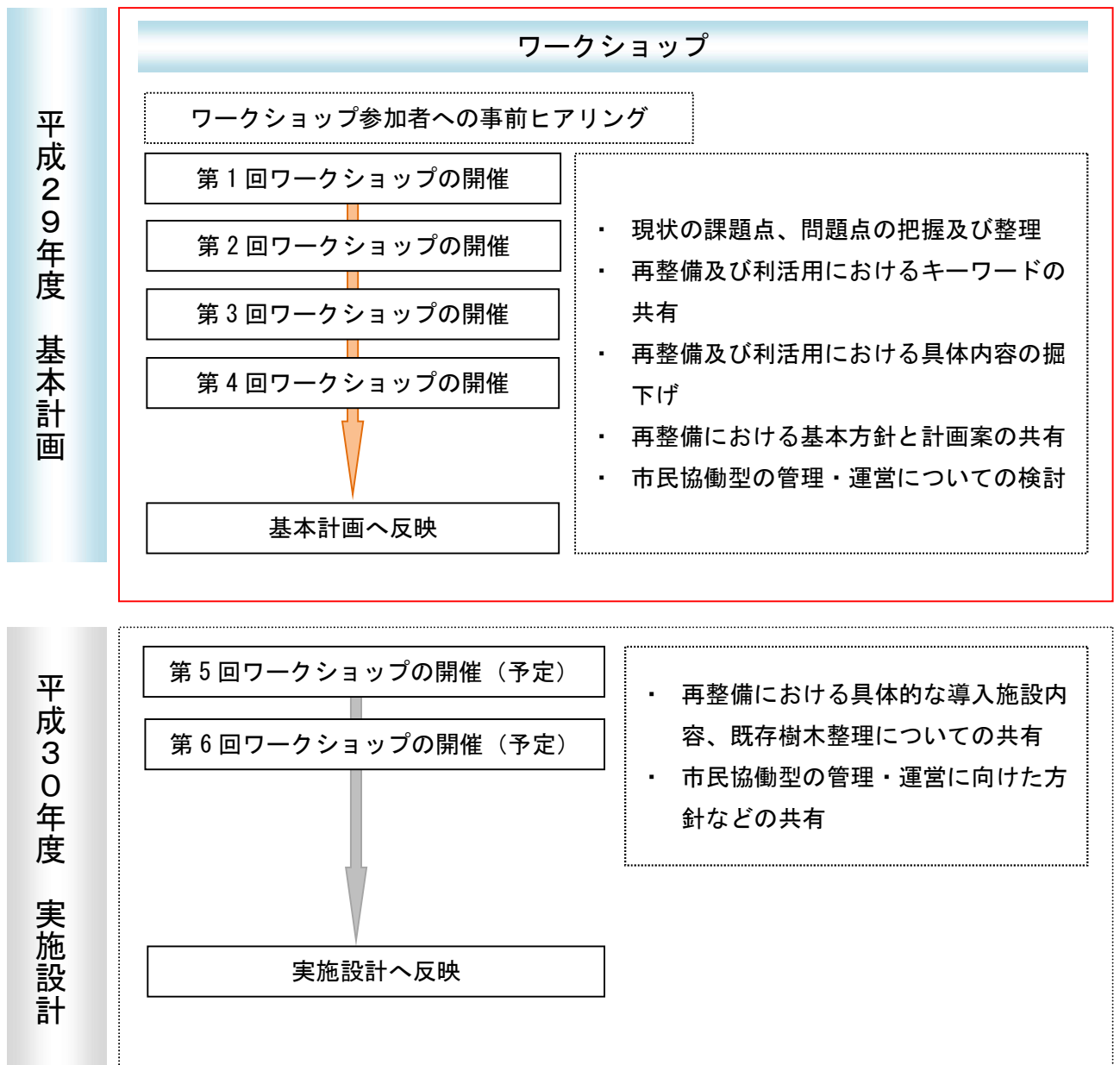
1 ワークショップ開催の目的

恵庭ふるさと公園の基本計画策定にあたり、本公園の現状の課題点や問題点を踏まえつつ、再整備に向けた公園の基本的な考え方や整備内容、また将来的な管理・運営のあり方について共通の認識を持つことを目的としてワークショップを開催しました。

本ワークショップは、平成29年度に4回、平成30年度に2回の計6回を予定しており、平成29年度は主に現状の課題把握と再整備に向けた基本的な考え方についての話し合いを行いました。

ワークショップの開催フローを以下に示します。

図表 1-1 ワークショップ開催フロー



2 ワークショップ概要

2-1 ワークショップ参加者の選定

ワークショップでは、幅広い意見や考え、情報が出されるよう、地域住民（町内会、商店街）を初め、地域活動団体、公園利用団体、花関係団体、教育関連団体、地元造園業関連、一般公募者で構成しました。

ワークショップ参加者一覧を下表に示します。

図表 2-1 ワークショップ参加者一覧

分類	名前	性別	参加			
			第1回WS	第2回WS	第3回WS	第4回WS
地域活動団体	小山 忠弘	男	○	○	○	○
	久保 純一	男	○	○	○	○
花関係団体	土谷 美紀	女	○	○	○	○
	池永 允子	女	○	○	○	○
	伊賀崎 淑子	女	○		○	○
公園利用団体	太田 実保	女	○		○	○
	鈴木 祥江	女		○		○
教育関連団体	村松 良太	男	○	○	○	○
	金井 穂波	女	○	○	○	○
地域住民 (商店街)	行澤 勇	男	○	○	○	
	村上 久之	男	○	○	○	○
地域住民	貞弘 博	男	○	○	○	○
	松本 博	男	○	○		○
	勝呂 由紀	女	○	○	○	○
	土居 勉	男	○	○	○	○
学生 (地域住民)	八木 直美	女			○	○
	石丸 敢大	男	○			
	稲船 光咲	女		○	○	○
地元造園業関連	内田 信一	男	○		○	
一般公募者	岡本 和則	男	○	○	○	○
	笠井 登	男	○	○	○	○
計			18名	16名	18名	18名

2-2 各ワークショップの開催目的及び開催内容

本ワークショップは、再整備における計画案の合意形成を最終目標として、そこに向けた議論が体系的に積み上がっていくよう進めていきました。また、ワークショップの開催間隔は、参加者の負担にならないように、概ね2カ月に1度のペースで進めました。各ワークショップでの目標及び開催内容一覧を下表に示します。

図表 2-2 ワークショップ全体概要

	開催日	場所	目的	開催内容
第1回 ワークショップ	7月8日	いくみ会館 恵庭ふるさと公園	・公園の現状の課題、問題点の共有	・自己紹介 ・現地確認 ・公園の魅力、課題や問題点の話し合い
第2回 ワークショップ	9月2日	いくみ会館	・再整備・利活用における キーワードの共有 ・みどりや花をメインとした 全体イメージの共有	・第1回WSのふりかえり ・キーワードを踏まえたみどりと花の 基本的な考え方についての話し合い ・ゾーン毎の利用イメージの話し合い ・Park-PFIの先事例の紹介
第3回 ワークショップ	11月2日	いくみ会館	・みどりや花をメインとした ゾーン毎のイメージを深める	・第2回WSのふりかえり ・ゾーン毎の大きさや動線についての 話し合い ・施設配置についての話し合い
第4回 ワークショップ	1月18日	いくみ会館	・再整備計画案のイメージの共有 ・持続可能な地域参加型の 管理・運営についての話し合い	・第3回WSのふりかえり ・再整備計画案についての話し合い ・地域参加型の管理・運営についての 話し合い

2-3 ワークショップ参加者への事前ヒアリングの実施

参加者の公園に対する想いや考えなどを事前に把握するべく、ワークショップの開催を前に、参加者に対して主に以下に示す4つの項目について事前ヒアリングを行いました。

- ・ 恵庭ふるさと公園に対して現在の利用状況や頻度について
- ・ 花に関わる上での良い点や困っていることについて
- ・ ワークショップ及び再整備に期待することについて
- ・ 今後の活動や利用に関する可能性について

次頁以降にヒアリングでの主な意見を示します。

【現在の利用状況や頻度】

- ・ まち組の自主事業として取組んでいるハーブ園で定期的にハーブ講座を行っている。
- ・ 犬の散歩などで利用している。最近は利用する機会が減っている。
- ・ 月に1回プレーパークで利用している。(今年で4年目)
- ・ 自転車が好きで、町内会の交通安全イベントなどで利用している。
- ・ 小学生の時は遊具で遊んだ。中学生時はテニスコートを利用した。最近は利用していない。
- ・ エゾリスの観察や散歩で利用している。
- ・ 町内会の子ども会で毎年利用している。
- ・ 週に2~3回保育園の散歩で利用している。
- ・ 既存の遊具では対象年齢が高いため幼児は利用できないが、遊びに来ている児童とのふれあいがある。

【現在の公園のイメージ】

- ・ 昔から住んでいる人には「墓地」のイメージがある。スズメバチやカラスなどにより利用しにくい。
- ・ 樹木がうっそうとしており、明るさや開放感がない。自然が豊か。
- ・ 落ち葉対策ネットが景観を損ねている。
- ・ 破損している施設が多く、公園のイメージを悪くしている。
- ・ 現在のふるさと公園にプラスのイメージがない。

【ワークショップ・再整備に期待すること】

- ・ 誰もが自由に利用できる広場の整備。
- ・ 青空ダンススクール、お盆時期の肝試し、望みの丘での星の観察会など、楽しみの価値をあげていく事が大事。
- ・ ふるさと公園にある貴重な樹木は地域で価値を共有したい。
- ・ ふるさと公園の特性に合った花壇が良い。(シェードガーデン)
- ・ 宿根草をメインとして維持管理費を抑える。
- ・ 学園通り側に駐車場やメイン出入口が必要。
- ・ 都市公園法が緩和されたことから、飲食店や商店を整備すべき。
- ・ 人が留まる仕掛けが必要。
- ・ 障がい者も利用できる花壇を整備したい。車椅子で花植え作業ができる花壇。
- ・ 他の所で育てている宿根草が大きくなったら、ふるさと公園に株分けしたい。
- ・ 落ち葉ネットの代わりに花を植えたら良いのでは。花が落ち葉の流出を抑える。
- ・ 綺麗に整備しすぎないで“ゆっくり出来るところ”の空間創出が大事である。
- ・ 管理方法の改善。ポイントを絞って管理した方が良い。
- ・ 多世代が利用する公園になってほしい。次世代の育成につながる話し合いとなれば良い。
- ・ 地域の人と協力してツリーハウスを作りたい。バーベキューが出来るところになれば良い。
- ・ 一緒に公園をきれいにする楽しみを多くの人にも知ってほしい。そのための仕掛けが大事である。

【ワークショップ・再整備に期待すること】

- ・ 桜が楽しめる空間がほしい。まとまった広場が必要。ふるさと公園ならではの特色を出すべき。
- ・ 学園通側は自然に入れるデザインの入口にしてほしい。
- ・ 新たな遊具や施設の配置に期待する。望みの丘を利用した遊具（長大滑り台、長大ターザンロープ）
- ・ 敷地南側の道路に面する樹木にキツツキの巣があるので残してほしい。
- ・ 冬も利用できる施設がほしい。
- ・ 森林の中に1箇所大きな光が差し込むような広場がほしい。
- ・ 大きな樹木が多いので樹木を利用したハンモック等の施設があれば良い。
- ・ 友人は恵庭の駅前には何もないと言われる。立地も良いので電車利用者に降りて立寄っても良いと思うような公園にしてほしい。
- ・ ソフトクリームなどの軽食店があれば立寄る。
- ・ 今回のワークショップでの意見が多く反映されたら良い。
- ・ 桜の名所となれば良い。
- ・ 公園周辺の歴史などを残していく事は大事。記念碑などの設置。

【今後の活動・利用に関する可能性】

- ・ 基本的な維持管理（草刈など）は、指定管理者に頼ることとなるが、年間と通したイベントやその運営を協議会などの発足によって実施することができれば良い。（横のつながりを太く密に）
- ・ 最初から協議会の決まり事を固めすぎると、自由度がなくなり持続性が難しくなる。
- ・ 落ち葉の問題は、例えば「落ち葉の日」なるものを設けて、その日は市役所も協力して市民が清掃・収集し、それを市役所が回収するなど考えたい。
- ・ 学生を取り入れれば可能性は広がる。今回のワークショップに参加する方々で運営委員会を立ち上げて、公園で何が出来るか検討することも良い。
- ・ 学生が積極的に利用できる方策（例えば文化祭の会場提供、ハロウィンパーティー、ハーブ園のハーブを使用した活動など）を考えていきたい。
- ・ プレーパークの活動に理解を示す親が増えている。今後も活動の幅を広げていきたい。
- ・ 近接する町内会から有志を募って組織化をしたい。

2-4 第1回ワークショップ

図表 2-3 第1回ワークショップ概要

第1回ワークショップ	
開催日時	平成29年7月8日 9時～12時（3時間）
開催場所	恵庭ふるさと公園及びいくみ会館
参加人数	恵庭市役所：5名 恵庭まちづくり協同組合（指定管理者）：1名 環境緑地研究所：8名 ワークショップ参加者：18名
開催目的	<ul style="list-style-type: none"> ・公園の現状の課題や問題点の共有 ・現地散策により敷地特性などについて共通認識を図る
提示資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ開催目的、再整備スケジュール表 ・事前ヒアリング結果一覧 ・現況樹木図 ・現地散策ルート図

第1回ワークショップでは、本公園が再整備することとなった背景や、事業スケジュールの説明を行うとともに、事前ヒアリングの結果を報告することで、様々な考えや意見があることを認識してもらいました。

また、これらを踏まえて班毎に現地散策を行いました。1時間程度の現地散策では、改めて現状の課題点や問題点を共有するとともに、市内の他の公園ではなかなか見ることのできない巨木や大木など、本公園の魅力についても確認できました。

現地散策後は、公園の魅力や現状の問題点を整理するとともに、改善に向けた意見などを班毎にまとめ、発表しました。

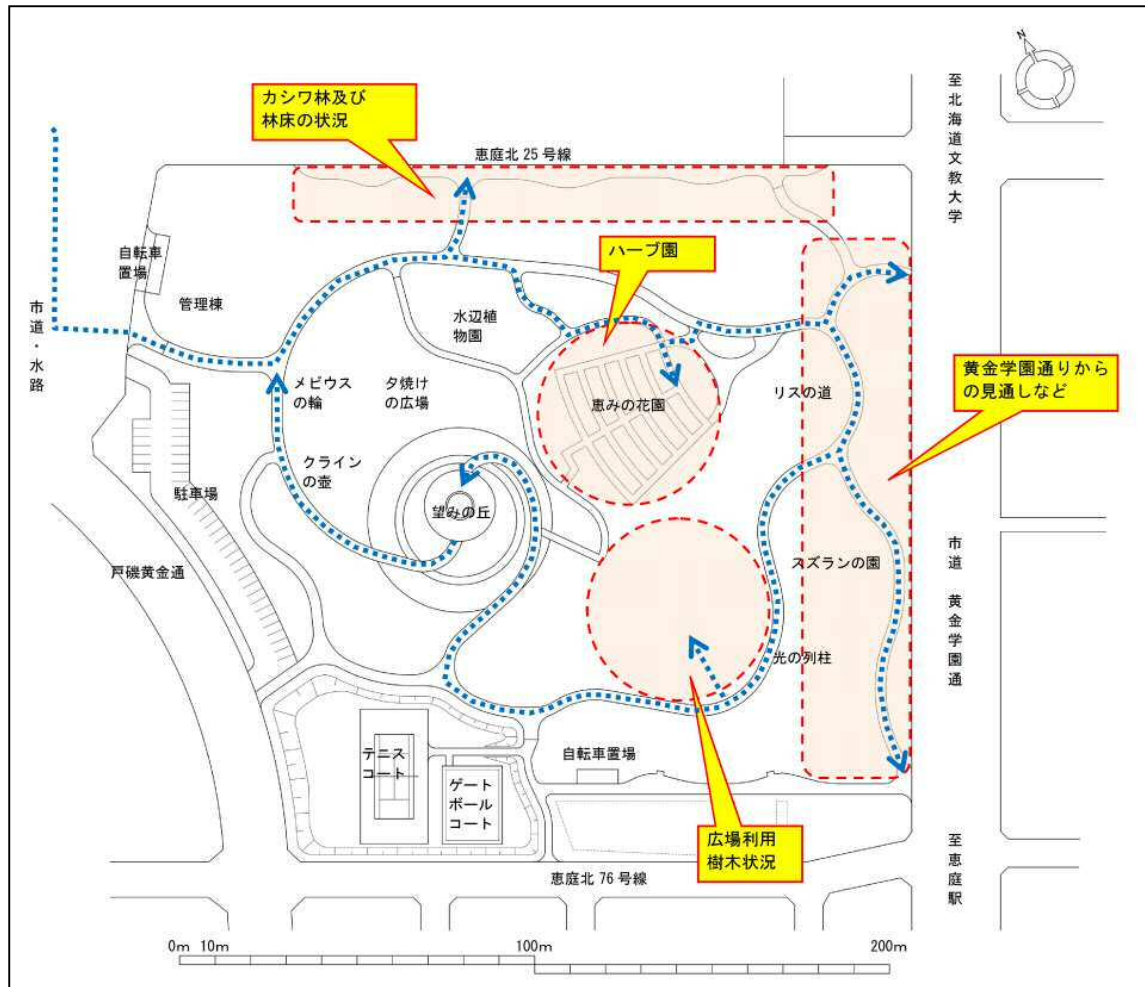


公園を再整備する背景や関連する計画内容、事業スケジュール説明の様子



参加者による自己紹介の様子

図表 2-4 現地散策マップ



カシワ林と落ち葉ネットの状況を確認している様子



ハーブ園の状況を確認している様子



黄金学園通に計画予定の自転車道を説明



望みの丘からの眺望を確認

第1回ワークショップで挙げられた主な意見について以下に示します。

☆ ふるさと公園の魅力・良いところ

○ 樹木

- ・ ちょっとした日陰部分は心地が良い。何十年も昔からある大木や巨木。
- ・ 木のぼりをして遊ぶのに程良い高さの木がある。木陰や風が心地よい場所が多い。

○ 水路・池

- ・ 望みの丘からの水の流れが良い。水辺に生息する生物が観察できる。

○ その他

- ・ 公園全体の面積が広く、開放感がある。「リスの道」など場所の名前に親しみがある。

☆ ふるさと公園の問題点

○ 樹木

- ・ 全体的に樹木が多く暗い雰囲気になっている。樹種が分からないので興味がおきない。
- ・ カシワ林がとて重たいイメージがある。

○ 水路・池

- ・ 衛生的に水辺で遊びたくなる環境ではない。

○ 遊具

- ・ 対象年齢が高いものしかない。遊べるスペースが限られており狭い。

○ その他

- ・ グリーンネットが公園の景観を損ねている。休憩場所が少ない。
- ・ 全体的に暗く大人でも入りづらい。公園のコンセプトが分からない。

☆ こうしたら良いのでは！

○ 樹木・恵みの花園（ハーブ園）

- ・ カシワ林の下草類の処理や維持管理方法を考える必要がある。
- ・ 大木を活用したハンモックやツリーハウスなどプレイパークゾーンを検討したい。
- ・ 落ち葉を堆肥としてリサイクルを学ぶ施設があっても良い。
- ・ 遊歩道の周辺樹木の間引きで明るく開放的な空間づくり。
- ・ 大木、巨木には解説板などで利用者に周知。桜の名所としてはどうか。
- ・ ハーブ園は黄金学園通り側に移した方が良い。
- ・ 学校や地域住民による市民植樹の場所があっても良い。

○ アプローチ

- ・ 黄金学園通りからのアプローチに配慮する。（広い出入口、明るく開放的な空間）
- ・ 駐車場の整備、飲食などができる店舗の設置。
- ・ 管理の行き届く範囲で色彩豊かな花壇を整備し公園に立寄りたくなる工夫が必要。

○ 多目的広場・望みの丘

- ・ 地域の催しやお祭り、出店など自由度の高い多目的な広場があれば活気が出る。
- ・ 夏の盆踊りや斜面を利用したソリ遊びなど多様な利用ができる丘とする。
- ・ 桜など花を楽しめる丘としても面白い。

○ その他

- ・ ふるさと公園の歴史を学ぶモニュメントや記念碑を設置。
- ・ 景観向上のためグリーンネットは極力やめて垣根などにしてはどうか。
- ・ 幼児用の遊具も充実する。管理のかからない遊具の整備。
- ・ 地域参加も視野に入れた管理・運営を目指すため将来的には組織づくりを考える。



各班の話し合いと発表の様子

○ 第1回ワークショップのまとめ

第1回ワークショップでは、公園に対してさまざまな思いや考えを理解するとともに、現地散策によって改めて公園の現状の課題や問題点、他の公園にない魅力などを共有することができました。また、再整備に向けた意見や考え方についても多く挙げられました。

第2回ワークショップでは、みどりや花をメインとした公園全体の考え方について話し合うことを説明し終了しました。

2-5 第2回ワークショップ

図表 2-5 第2回ワークショップ概要

第2回ワークショップ	
開催日時	平成29年9月2日 10時～12時（2時間）
開催場所	いくみ会館
参加人数	恵庭市役所：3名 恵庭まちづくり協同組合（指定管理者）：1名 環境緑地研究所：8名 ワークショップ参加者：16名
開催目的	<ul style="list-style-type: none"> ・再整備・利活用におけるキーワードの共有 ・みどりや花をメインとした全体イメージを共有する
提示資料	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回ワークショップ意見集約図 ・第1回ワークショップから導かれたキーワード ・ゾーニング素案 ・パークマネジメントによる公園の運営管理事例 ・目的・用途別のガーデン事例

第2回ワークショップでは、第1回ワークショップで挙げられた意見や提案から共通する再整備・利活用におけるキーワードを提示し、公園全体の花とみどりをメインとした基本的な考え方について話し合いを行いました。

また、より具体的な話し合いが進むよう利用用途を踏まえたゾーニングの素案を提示するほか、参加者の土谷氏よりさまざまなガーデン事例を、久保氏からはパークマネジメントによる公園の運営管理事例について情報提供として紹介してもらいました。

【第1回ワークショップから導かれた3つのキーワード】

“らしさ” が感じられるみどりと花の景観

新たな地域のにぎわい拠点（顔づくり）

地域参加型による持続可能な管理・運営



参加者の土谷氏より目的や利用用途による様々なガーデンスタイルの紹介

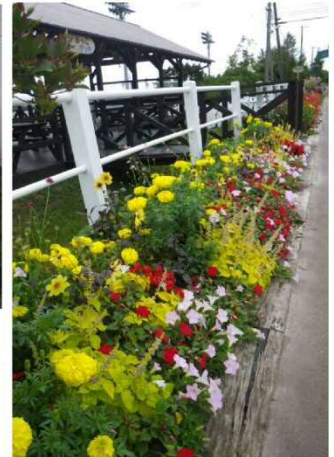
フラワーベッド・フラワーガーデン 施設出入口や沿道沿いを彩るガーデン



↑ テレビ塔



↑ 東武ホテル



門別競馬場塔→

カラーガーデン Color Garden

ビビッドな印象を受ける赤やオレンジの花、シックに落ち着いたブルーな花で形成されています。白い花を集めたホワイトガーデンもあります。



土谷氏より紹介されたガーデンスタイルの一例

ボーダーガーデン Border Garden

ボーダーとは境界のこと。園路や広場など、公園内のある部分を草花や低木で縁取ることにより印象的で見栄えのする空間となります。



シェードガーデン Shade Garden

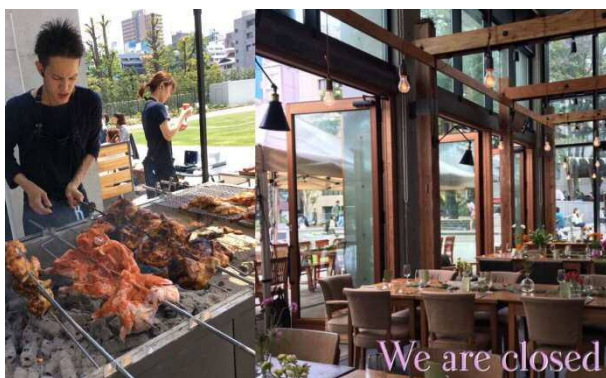
樹木や建物などによって、半日陰～日陰になる部分にある程度耐陰性のある植物を植えて、特徴的な空間となります。



土谷氏より紹介されたガーデンスタイルの一例



参加者の久保氏よりパークマネジメントによる公園の運営管理事例の紹介



久保氏より紹介されたパークマネジメントによる公園の運営管理の一例

第2回ワークショップで挙げられた主な意見について以下に示します。

みどりや花をメインとした公園全体の考え方について

☆ 光と影の対比

- ・ 市内の他の拠点施設があるなかで、ふるさと公園は既存の野草や巨木を活かして「らしさ」をだす。
- ・ 道と川の駅が「光」の公園とすれば、ふるさと公園は「陰」。シェードガーデンを中心とした創り方が良い。

☆ 芝生と木陰のゆるやかさ

- ・ 用途を限定しない多様性に富んだ芝生広場（広いスペース）を作って、価値観・思いを共有する交流の場とする。人がたくさん集まることが重要。ゆるやかさ（出来ることを限定してはダメ）

☆ 交流の場であること

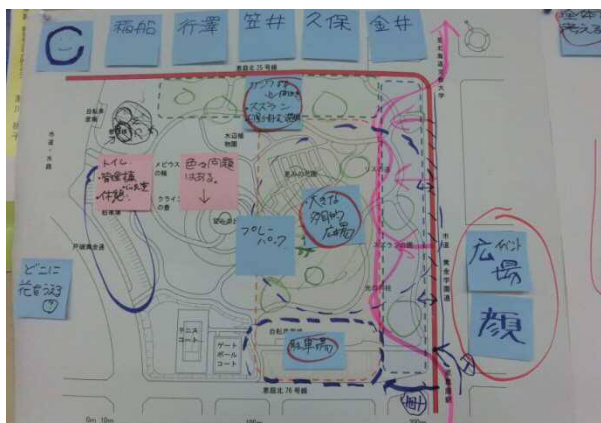
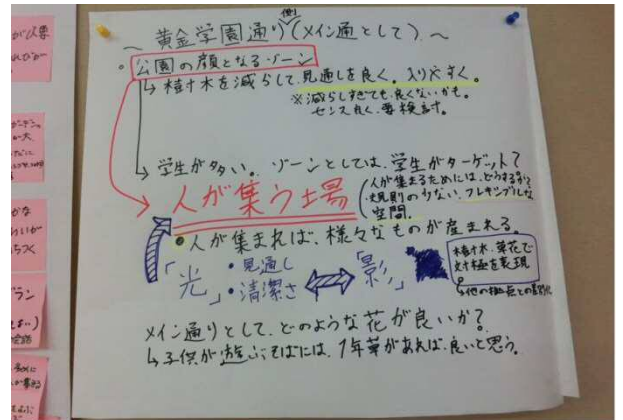
- ・ 駅前通りを利用する人、自転車道を利用する人、市内外問わずいろいろな人が交流できる場であることが望ましい。

☆ にぎわいの拠点（人が自然と立ち寄れる場所づくり）

- ・ だれが使うのか？⇒地域の子どもや散歩。学生は素通り（学生を取り込みたい） 通勤、通学時にでも通りたくなるような雰囲気づくり。地域の人が公園の魅力を発信する⇒人が集う場所となる。



各班の話し合いの様子



各班のとりまとめた意見台紙

○ 第2回ワークショップのまとめ

第2回ワークショップでは、再整備・利活用に向けたキーワードの共有が図られ、公園全体のイメージについても概ね共有されました。また、利用用途を踏まえたゾーン毎に対するイメージについても多くの意見が挙げられました。

当初は、本ワークショップは平成29年度に計3回を予定しており、次回のワークショップで再整備案の共有を目標としていましたが、参加者の公園に対する意識や思いが強く、もう少し掘り下げた話し合いが必要との意見が挙げられたため、ワークショップ回数を1回増やすことで参加者の合意が図れました。

第3回ワークショップでは、ゾーン毎のイメージを深めることを目標として話し合いを行うこととしました。

2-6 第3回ワークショップ

図表 2-6 第3回ワークショップ概要

第3回ワークショップ	
開催日時	平成29年11月2日 19時～21時（2時間）
開催場所	いくみ会館
参加人数	恵庭市役所：3名 恵庭まちづくり協同組合（指定管理者）：1名 環境緑地研究所：8名 ワークショップ参加者：18名
開催目的	<ul style="list-style-type: none"> ・みどりや花をメインとした各ゾーンのイメージを深める ・各ゾーンの規模や施設内容、動線について話し合う
提示資料	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回ワークショップ意見集約図 ・ゾーン毎の花やみどりのイメージスケッチ ・動線イメージ案

第3回ワークショップでは、第2回ワークショップで話された公園全体の考え方を基に、利用用途を踏まえたゾーン毎のイメージを深める話し合いを行いました。

具体的な内容としては、ゾーン毎のイメージが共有しやすいように、それぞれのスケッチを参考としながら規模や出入口、必要と思われる施設、利用者の動き（動線）などについて話し合いました。

また、公募設置管理制度（Park-PFI）を前提としたカフェや駐車場の場所についても話し合いました。



黄金学園通りに面する公園のイメージスケッチ



多目的広場のイメージスケッチ



カシワ林内散策路のイメージスケッチ



園路沿いの花木のイメージスケッチ

第3回ワークショップで挙げられた主な意見について以下に示します。

【メイン通り（黄金学園通）】

- ・ 歩道と一体感のある場所。（歩道との同一な舗装材など）
- ・ 既存樹木を整理して開放的な空間。（立ち寄りやすさ）
- ・ 維持管理ができる範囲でのふるさと公園らしさの花壇。
- ・ ふるさと公園らしさ⇒例えば園内で花苗から育て、徐々に増やしていくなどストーリー性を持たせる。
- ・ 出入口はどこからでも入れるような感じ。（3～4箇所）
- ・ 中央に幅の広い入口を設ける。（広場的な要素も持たせる）

【多目的ゾーン】

- ・ 出来るだけ大きな広場として多目的な利用に対応させる。
- ・ 既存樹木は大木など貴重木のみ残し適度な木陰を確保。
- ・ 利用方法は地域のローカルルールを設定する。（あまり規制をかけない）
- ・ バーベキュー、プレーパーク、デイキャンプなどにも利用したい。
- ・ 移動式のステージがあっても良いのでは。
- ・ 望みの丘との一体的な空間利用はできないか。

【カシワ林ゾーン】

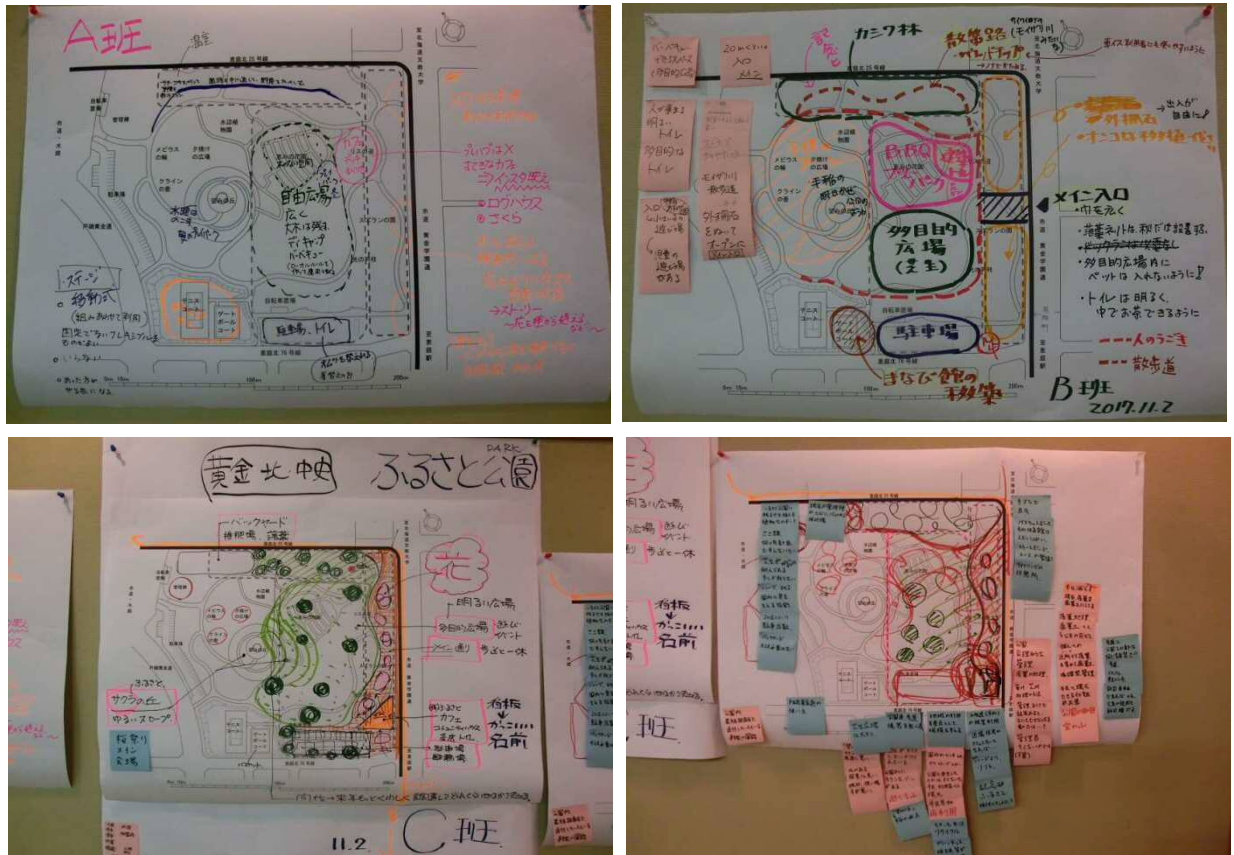
- ・ 林床の植物を楽しむ空間。（ササ刈り）
- ・ 適度な光がさしこむように樹木を整理する。
- ・ ウッドチップなど自然素材を使用した散策路。（車椅子利用者やベビーカーにも対応できるもの）
- ・ 一部を堆肥場などのバックヤードとして利用。
- ・ 公園の成り立ちが分かる記念碑などがあると良い。
- ・ グリーンネットは出来るだけ使用しない。（落葉のリサイクルを検討）

【その他】

- ・ 駐車場、駐輪場、トイレは76号線に確保。
- ・ コミュニティ拠点となる建物（カフェ、売店など）が出来ると良い。（お洒落な佇まいであることが重要）
- ・ ハーブ園は規模を小さくしても残す。⇒今後検討する
- ・ 望みの丘の樹木を整理。（サクラなど楽しめる樹種へ）
- ・ 水路は子どもたちの遊び場として必要。
- ・ テニスコート利用が少ないためドッグランとしてはどうか。
- ・ ゲートボールコート部分にバスケットゴール。



各班の話し合いと発表の様子



各班のとりまとめた意見台紙

○ 第3回ワークショップのまとめ

第3回ワークショップでは、ゾーン毎の考えについて多く意見が挙げられ、参加者の共有を深める話し合いとなりました。

また、再整備計画案のベースとなるゾーニングや利用者の動き（動線）についても、各班で整理することができました。

第4回ワークショップでは、各班のゾーニングを基にした再整備計画案を提示することとし、再整備計画案の合意形成を図ることです承を得て終了しました。

2-7 第4回ワークショップ

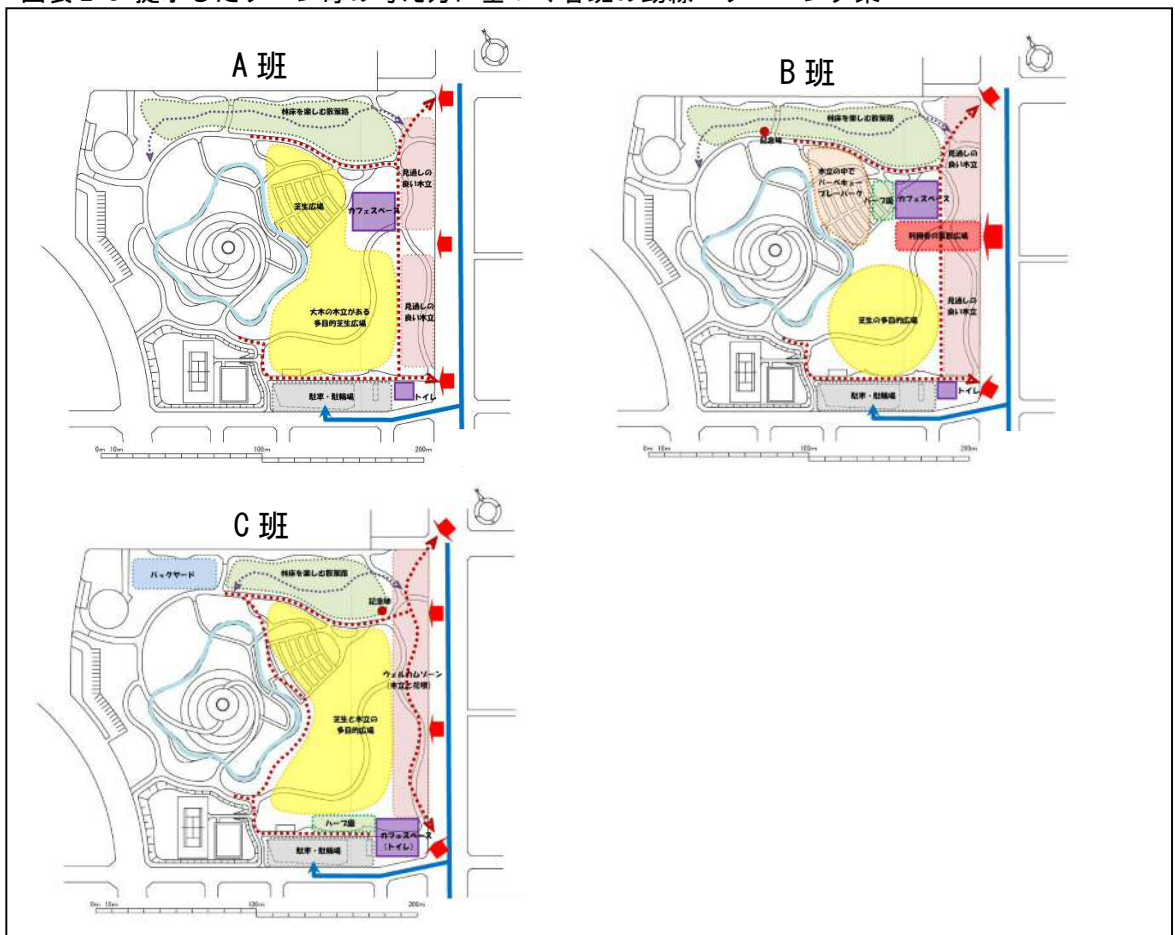
図表 2-7 第4回ワークショップ概要

第4回ワークショップ	
開催日時	平成30年1月18日 19時～21時（2時間）
開催場所	いくみ会館
参加人数	恵庭市役所：4名 恵庭まちづくり協同組合（指定管理者）：1名 環境緑地研究所：7名 ワークショップ参加者：18名
開催目的	<ul style="list-style-type: none"> ・再整備計画案のイメージの共有 ・持続可能な地域参加型の管理・運営に向けた話し合い
提示資料	<ul style="list-style-type: none"> ・第3回ワークショップ意見集約図 ・動線・ゾーニング案 ・再整備計画案

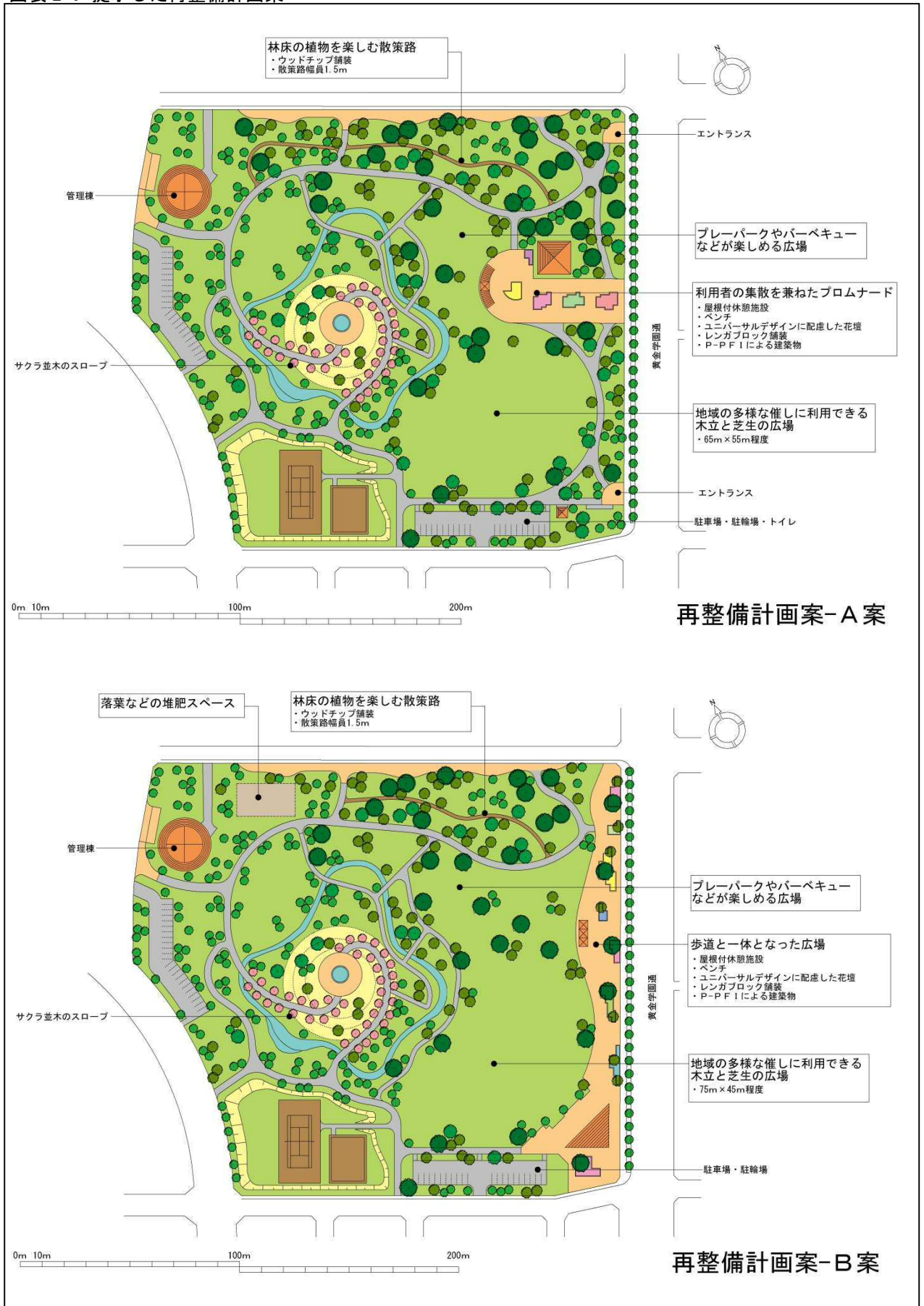
第4回ワークショップでは、第3回ワークショップでまとめられた各班のゾーン毎の考え方や、具体的な内容（大きさ、出入口、既存樹木、導入施設）を整理した動線・ゾーニング案（3案）及び再整備計画案（2案）を見ながら、再整備計画案の合意形成を図るべく話し合いを行いました。

また、再整備計画案の話し合いの後には、地域参加型の管理・運営に向けた話し合いを行いました。

図表 2-8 提示したゾーン毎の考え方にに基づく各班の動線・ゾーニング案



図表 2-9 提示した再整備計画案



再整備計画案についての主な意見について以下に示します。

【再整備計画案についての主な意見】

○ 黄金学園通からの出入口

- ・ 黄金学園通に面している部分は、歩道と一体となったB案の方が開放的で良い。
- ・ 黄金学園通に面する部分には彩りが楽しめる花壇がほしい。
- ・ 黄金学園通に整備する花壇は移動式のプランターなどの方が良い。

○ 多目的広場

- ・ 広場の集約（利用形態）を考えるとA案の方が利用しやすい。
- ・ 芝生の広場を小さくしてまで築山はいらぬ。
- ・ 望みの丘の斜面を緩くして、多目的広場と一体としたい。既存の水路も残したいので技術的に可能か今後検討してほしい。

○ カシワ林

- ・ カシワ林の一部に堆肥スペースは必要。
- ・ カシワ林の散策路の横にハーブがあれば良い。（ハーブロード）
- ・ グリーンネットの代替えとして低木の垣根を整備して景観としても楽しめるように。

○ カフェなどの建築物

- ・ 利用動線を考えたらカフェなどの建物は駐車場の近くの方が良い。
- ・ カフェなどの建築物から景色が楽しめるのはA案。
- ・ 素敵なカフェであればどちらの案でも良いと思う。

○ その他

- ・ 駐車場の場所は敷地南側が良い。
- ・ 駐車場の横にはトイレがあると利用しやすくて良い。
- ・ 水路の水質が悪い。流れを速くできないか？
- ・ 噴水は今後も必要か？噴水が無くても親水できる場所があれば良いのでないか。
- ・ 将来的には遊戯広場も更新が必要。



各班の話し合いの様子



各班の発表の様子とまとめた意見台紙

○ 第4回ワークショップ再整備計画案のまとめ

再整備計画案については、B案を基本ベースとして進めることで合意形成が図れました。望みの丘の斜面との一体化の検討や、既存水路や噴水の存廃、花壇や休憩施設など導入施設の具体的な配置については、平成30年度に開催するワークショップで引き続き検討することとなりました。また、既存樹木の伐採対象樹木についても平成30年度のワークショップで確認することとしました。

地域参加型の管理・運営に向けた主な意見について以下に示します。

【地域参加型の管理・運営に向けた主な意見】

○ 持続可能な運営への関わりと組織づくり

- ・ かしこまった組織になると気軽に物事が言えなくなる。
- ・ 各々がやりたいことを実現するための、相談できる場であってほしい。
- ・ 自分たちができる事を考えていくゆるい組織づくり。
- ・ 横のつながりを大事に徐々に広げていく。
- ・ 様々な人（立場や活動など）で成り立つ組織が大事。
- ・ 協力者を探す。（市役所、業者など）

○ 子どもが楽しめる活動

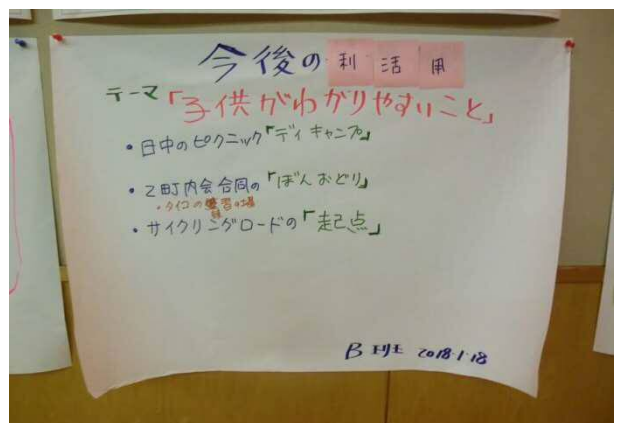
- ・ 子どもがわかりやすい活動を続けていく。
- ・ 子どもたちに「自分たちの公園」って感じてもらえるような公園。
- ・ 子どもの声を聞いてみたい。
- ・ 子どもがやることは親（大人）もひきこまれる。

○ こんな活動をしたい

- ・ 子どもを対象としたイベント。例えば 1/2 成人式とか。
- ・ 町内会の枠を超えたデイキャンプや盆踊り。
- ・ 花見、青空ヨガ、燻製・ピザづくり体験。
- ・ 伐採木を使った体験教室、木のぼり、落ち葉を使った宝物さがし。
- ・ 商店街の人たちと協力したマルシェやバーベキュー大会。
- ・ 文教大の学生や保育園の人たちとの協同イベント。



各班の話し合いの様子



各班の発表の様子とまとめた意見台紙

○ 第4回ワークショップ地域参加型の管理・運営に向けたまとめ

地域が公園の管理・運営に携わるためには、誰もが気軽に参加することのできる“ゆるい”組織づくりが必要であり、組織を構成する人たちの多様性も挙げられていました。また、将来を担う子どもたちが楽しめる活動を考えていく必要性も挙げられていました。

平成30年度のワークショップでは、組織化に向けた話し合いを中心として進めていく事で合意が図られました。

2-8 ワークショップまとめ

本ワークショップは、平成 29 年に市で策定した「恵庭市公共施設花づくり基本指針整備・運営計画」において、花の観光拠点の 1 つとして位置付けられ、これを踏まえた再整備内容のワークショップとして開催されました。

ワークショップでは、花やみどりに対して本公園らしさを感じられる景観と、賑わいの創出が参加者の共通認識となって建設的な意見が多く挙げられました。

また、再整備後の利活用や管理・運営面での関わることの重要性についても多くの意見が挙げられたワークショップだったと思います。

今回のワークショップでは、再整備計画案の大枠での合意形成が図れましたが、平成 30 年のワークショップにおいて、更に細部の整備内容や持続可能な地域参加型の管理・運営に向けた話し合いを進めていくこととします。